

この度はこのような機会をいただき、日本サイトメトリー学会関係者の方々に感謝申し上げます。

私がサイトメトリー技術者認定試験の受験を考えたのは、約5年間フローサイトメトリー検査に従事して得た知識や技術の再確認のためでした。日々の検査業務の中で、フローサイトメトリーの基本は習得できていると考えておりましたが、それは一般的な検体の処理方法や当院で所有している抗体、扱い慣れているフローサイトメーターに限られたことです。新しい検査内容や機器が導入されたり、マルチカラーでの検査効率化などを図る場合に、対応できるだけの確かな知識や技術は圧倒的に不足していると感じたことが受験のきっかけでした。そこで、これまで身に付けてきたフローサイトメトリーの基礎を再確認するとともに、今後フローサイトメトリー検査業務の効率化や発展に寄与できる応用力に繋がる知識を得る良い機会である認定試験の受験を勧められました。

日本サイトメトリー学会のホームページで受験勉強の参考資料として紹介されているものの中では、「スタンダードフローサイトメトリー 第2版」を中心に学習を進めました。こちらの参考書には、フローサイトメトリーの原理や構造、蛍光色素の特徴や検体の処理方法といった基礎はもちろん、疾患別の表面抗原の識別やデータの解析方法が丁寧に記載されております。これまで曖昧にしか理解していなかった内容を一から勉強し直すことができ、日々の業務でも蛍光色素の組み合わせや機器の設定、疾患を特定するために必要な抗体等を積極的に考えられるようになったと思います。さらに精度管理に関してやフローサイトメトリーを応用した技術なども盛り込まれており新しい知識も学習することができました。また、「Medical Technology 誌 Vol.32 より、チャレンジ認定試験」を活用して学習内容の定着を行いました。

試験当日は、午前9時～午後4時まで技術講習会が行われ、講習会終了後に認定試験が90分間行われました。私は表面抗原コースを選択しましたので、共通問題25問、表面抗原解析25問の計50問（選択問題形式）を回答いたしました。試験に際して感じたことは、一日通して行われる技術講習会が非常に有意義であったことです。講師の先生方は、フローサイトメトリー技術に関して特別重要な内容は改めて確認してくださり、参考書を使用して学習していても十分に理解できないような複雑な内容に関してはより分かりやすく噛み砕いて説明してくださいました。また、参考書には載っていないような最新の知見なども盛り込まれておりましたので、新しい知識を得られるとともに、より理解を深めて試験に臨むことが出来ました。

今回の認定試験を経て、自身の知識の曖昧さに改めて気付きました。しかしフローサイトメトリーについて一から学び直し確かな知識と技術を身に付けることが出来たことは、今後の検査業務に貢献できる自信となりました。そして認定試験をゴールと考えず、日常業務に携わりながら自己研鑽を重ねていきたいと考えます。

最後に、微力ながらこの体験記が今後受験される方々の参考になれば幸いです。